

思 い 出 (※1)中第 11 回卒 金 澤 政 義 (※2)

わたしは小学校時代に両親に死に別れ、叔父に養育されました。自分が進学を希望していたというもののほかに、体が小さく弱かったということもあって「おまえは農家の仕事はできないだろう」ということで当時の相馬中学校に入学しました。

当時は福島県に 4 校しかなく、志願者の数も多く随分遠方からも来ていたようです。でも、わたしは農家の長男でありながら運よく合格したので嬉しさもまた格別でした。かすりの着物に、はかま、下駄ばきという姿で 4 キロ余りの道を往復歩いて通学しました。

中学 4 年の時、家が経済的に困っていたのか、自分の体が農業に耐えられるだけに成長してきたのか、叔父に「お前は長男だから学校をやめて百姓をやれ」といわれ、3 ヶ月間学校を休まされ、馬車曳きをさせられました。あと 1 年で卒業なのに退学するのが残念で残念であんなに困ったことはありません。ところが幸いにも相中の校長先生と村の村長さんがこのことを聞きつけて、叔父に退学させることだけは思いとどまるよう説得してくれました。わたしは嬉しくて胸が一ぱいになり涙が出ました。あの時の有難さは今でも忘れることはできません。叔父は卒業後は必ず百姓することの誓約書を取り、血判を押させることで退学させることは思いとどまりました。

当時は成績が悪いと進級できない落第という制度があり、中には 8 年、9 年もかかって卒業した者もいたようです。わたしの入学の時は 150 人いたのが卒業の時は、74、5 人だったと記憶しています。

わたしも相中の 5 ヶ年間は一生懸命やりました。相中時代の尊敬していた恩師として高野藤三 (※3) 先生、成田三千郎 (※4) 先生を記憶しています。わたしは当時、代数、幾何、物理、化学が得意でした。成田先生はその担当で、元気があり、授業はきびしかったが、普段はとてもやさしい先生でした。一生の中に尊敬できる先生に会えたということは人生にとってこのうえない幸せなことです。

わたしは体をきたえるため、5 年間剣道をやり通しました。寒げいこの時など、前の夜つくった 2 食分の弁当をもって、早朝暗いうちに家を出て夢中で練習に励んだものです。

苦しかった、楽しかった思い出を残して大正 2 年 3 月、相中を卒業しました。友人達の中には旧制の高等学校や専門学校に進む者も数多くあり、自分も進学したいという希望はあったが、それを誰に打ちあけるということもできず、卒業後は約束通り百姓になりました。

相中で教育を受けたお蔭でいろいろと考える百姓になっていたようです。仕事の余暇には農村青年の指導にもあたり、村や市の為にも微力を尽してきました。

わたしも本年 83 才になり、昭和 51 年地方自治に功労があったということで、勲五等瑞宝章を受賞し感無量です。苦しみに打ち勝って誠実に生きてきた賜物と思います。

なつかしい我が母校の発展を祈ります。

(※1) 「相中相高八十年」1978(昭和 53)年 5 月 7 日発行、「思い出の記」より。

(※2) 大正 2 (1913) 年卒、大野出身。

(※3) 相中第 1 回生、1903 (明治 36) 年卒、中村出身。

相中及び相高教諭 明治 39 (1906) 年～昭和 26 (1951) 年、英語・漢文

(※4) 相中教諭：明治 31 (1898) 年～大正 11 (1922) 年。